

■田中智学 日蓮系宗教家。〔立正安国会〕(国柱会)を起し、法華經に基く体系的教學で、多分野の人材に影響。

たなかちがく
遣欧使節・1861=

清和源氏の流れで代々美濃国で庄屋をつとめるも没落し、祖父の代に医業を始め、若くして江戸日本橋に出奔して医業を開き評判を得ていた田中義圖改め多田玄龍の三男に生まれる。母は側室。

田中家は代々浄土真宗であったが、ある時法華信者と論争して敗れた父が、潔く法華宗に転じる。

父が中風を發し、神田周辺を一家で転居するうち、

明治維新・1868= 7歳:

戊辰戦争終・1869= 8歳:

初の日刊新聞1870= 9歳:

廃藩置県・1871=10歳:

学問のすすめ1872=11歳:

明治6年政変 1873=12歳:

佐賀の乱・1874=13歳:

初の民間工場1875=14歳:

三つの内乱・1876=15歳:

生母が死去。
統いて父も死去して家運傾き、葛飾一之江の日蓮宗妙覚寺に出され、日進から得度、智学の名を受ける。

下総国香取郡にあった飯高壇林に入学、学業の進歩著しいが、
田中姓を名乗る。

廃仏毀釈運動によって廃絶となり、一之江妙覚寺に帰る。

日蓮宗の最高学府として刷新された大教院に入学するが、目上の長者にも遠慮しない性格から、
院長新居日隆の忌諱に触れ、多くの者の面前で叱責されて、妙覚寺に引揚げてしまう。老師の説得で復帰するが、重い肺炎に罹り、伝え聞いた医者をして居る長兄に引き取られ、

日蓮宗管長より教導職試補任命。
教団の折退撰進主義に疑いを抱き、
妙覚寺で独学研鑽するうち、国体開頭の思想に到達、在家仏教興立の大志を抱き、脱宗し還俗。

*横浜に〔蓮華会〕をおこして在家仏教運動を開始、

明治14年政変 1880=19歳:

新体詩抄・1882=21歳:

横浜の大神常清寺の住職の厚意で、そこを会場に初めて聴衆の前で演説、
男子が誕生するも夭折、以後、赤ん坊の泣き声を嫌うようになる。

秩父事件・1884=23歳:

内閣発足・1885=24歳:

長男が誕生。
東京に移住し、浅草を拠点に信者集めて講義しながら縁を広げて行くうち、
〔立正安国会〕を創立、これを誹謗する仏教青年会と問答討論して一蹴、一躍名が知れ渡る。

以後、時々発病して静養するなどしながら、次々と大演説会を開くなどして信者を拡大、
次男が誕生。「仏教夫婦論」「世界一大事」出版。

国民之友始・1887=26歳:

初の対等条約1888=27歳:

帝国憲法発布 1889=28歳:

帝国議會始・1890=29歳:

大津事件・1891=30歳:

福島県で磐梯山が大噴火すると、写真師を連れて現地に赴き、幻燈映画にして義捐金集め、
「末法僧侶肉食妻帯論」を書上げる一方、憲法講義。

日蓮宗の内紛に懇請されて応援演説。「竜口法難論」出版。

宗門改革運動を契機に、名古屋さらに大阪へ教線を広げ、機関誌〔獅子王〕創刊。東京専門学校で講演。

この間、〔立正安国会〕本部を移し、

日清戦争始・1894=33歳:

日清戦争終・1895=34歳:

白馬会・1896=35歳:

八幡製鉄始・1897=36歳:

日清戦争始まるや、報国運動、
大阪四ツ橋に〔立正安国会〕の新会堂が落成。

鎌倉要山に新居建て、

獅子王文庫併設。

主として講演と著述による折伏中心の活動を展開、高山樗牛らに影響を及ぼし、

Bushidou・1899=38歳:

ビアノ国産化・1900=39歳:

田中正造直訴1901=40歳:

教科書疑獄・1902=41歳:

日比谷公園・1903=42歳:

日露戦争始・1904=43歳:

日露戦争終・1905=44歳:

満鉄発足・1906=45歳:

韓国反日暴動 1907=46歳:

大石寺派との問答事件もあって、突如、〔立正安国会〕会頭を退任、機関誌〔妙宗〕を刷新などするうち、
またまた肺炎で危篤になり、命は取り留めるものの長期療養を余儀なくされる。

「宗門之維新」「本化撰折論」は当時の日蓮系の僧俗に影響を与えた。

「本化妙宗式目」をつくり、〔立正安国会〕本部で創業成満式を行う。

次女が誕生。

日露戦争勃発にまた、報国運動、

三女が誕生。思うところあって禁煙。

〔立正安国会〕本部を移した鎌倉要山の施設を拡充。

この間も度々発病し静養、

前年の旅行中に死んだ愛猫の塚建立。機関誌〔妙宗〕を写真入りの豪華版に。

伊藤博文暗殺 1909=48歳:

韓国併合・1910=49歳:

大逆事件判決 1911=50歳:

明治天皇没・1912=51歳:

大正政変・1913=52歳:

第一次大戦始 1914=53歳:

21ヶ条要求・1915=54歳:

民本主義・1916=55歳:

本格政党内閣 1918=56歳:

ベルサイユ条約・1919=57歳:

大暴落・1920=59歳:

静岡閣を移転する形で最勝閣を建設、
〔大逆事件〕を機に、「日本国体学」を提唱、国体の開頭に努め、
〔妙宗〕と〔日蓮主義〕を合併し〔国柱新聞〕創刊。

強度の神経衰弱と脂肪過多症に風邪をひき、絶対安静、

さらに悪化し手術。*さらに正境宝殿を建設、有縁の諸団体を統合して〔国柱会〕創立、本部と文庫を置き、

奉祝運動を挙げる。『自らの教学の集大成』日蓮主義教学大綱に基づいて活動、

東京に本拠設置を希望する声多く、なお病床にありながら、東京巖谷に国柱会館を建設し、

活動を支える国柱産業株式会社を設立するが、失敗。竣工。

思想雑誌〔毒鼓〕創刊。

〔毒鼓〕を改め日刊新聞〔天業新聞〕発刊。日蓮遺文辞典として「本化聖典大辞林」を編集刊行し、フランス人

リシャール博士夫妻が来訪、官沢賢治が入会するなど、隆盛ピークとなる。

還暦を迎え祝賀会が開かれるとともに、国柱文芸会を始め、教化芸術を推進。

「日本国体の研究」出版。財団法人国柱会資成部が認可される。市川に国柱文芸会学習所を市川に開設し、

国柱劇を公演するなどするが、大震災で壊滅的影響を受ける一方、罹災者救済運動。

静岡県原田に鑑石園を造営。衆議院議員に立候補するが、次点に終わる。

原田に獅子王文庫を建設。陸軍省の要請で講演、以後、各地で講演会。

国柱会の霊廟建設を発起し、

明治節制定を発起して実現し、東京放送の依頼でラジオ講演。

〔読売新聞〕の名著懸賞投票で自著「日本とはいかなる国ぞ」が一等。葛飾一之江に、百万体の遺骨を一塔合

安する模範的な墓地・妙宗大霊廟を開設。

世界恐慌・1929=68歳:

海軍軍縮条約 1930=69歳:

満州事変・1931=70歳:

五一五事件・1932=71歳:

国際連盟脱退 1933=72歳:

帝人疑獄事件 1934=73歳:

芥川直木賞始 1935=74歳:

日中戦争始・1937=76歳:

脳溢血で卒倒し入院、退院後も静岡県興津で静養。

一之江に〔申孝園〕、

〔大講堂〕が落成。

満州事変勃発の非常時に鑑み、機関誌を日刊にして〔大日本〕と改題。

「政治に拘はらず」、

日蓮宗の関連団体で講演中、再び脳溢血で倒れ、静養。

満州に渡って各地で講演、皇帝にも謁見、朝鮮経由して帰国するも疲れ甚だしく、*隠退を決意し、

第二次大戦始 1939=78歳: 没した。